

# えん罪と闘い釈放された5人の交友記

## NHK番組「獄友(ゴクトモ)たちの日々」を見て

埼玉・星野ネットワーク

皆川 学

「獄友」とは、「布川事件」の桜井昌司さん、故・杉山卓男さん、「狭山事件」の石川一雄さん、「足利事件」の菅家利和さん、そして袴田巖さんの5人のこと。4月22日、NHK教育テレビで放送された番組は、この5人の交友記を一时间にまとめたものです。

5人の共通点は、かつて「殺人犯」とされていたことです。在監年数は、桜井さん・杉山さんは29年、石川さんは31年7か月、菅谷さんは17年6か月、袴田さんは48年。再審運動の苦闘の末、ようやく釈放・仮釈放を勝ち取りました。番組では、菅家さんの釈放を機に交流が始まり、桜井さんをつなぎ役としてそれぞれの自宅を訪問したり、カラオケに興じたり、失われた時間を取り戻すように釈放後の人生を精いっぱい過ごしている様子を追っています。桜井さんと杉山さんは、互いに喧嘩をしながら腹の底では信頼し合っていて、それぞれ伴侶も得ました。菅家さんは毎朝の散歩、しかし事件のあった渡良瀬川の河川敷には足は向けません。石川さんは再審に向け毎日修行僧のように1日2食とランニングで体を鍛

えている。釈放後は不可解な言動を繰り返していた袴田さんも、ついには誕生日に桜井さんと将棋を指すようになりました。

監督は、「SAYAMA 見えない手錠をはずすまで」「袴田巖 夢の間の世の中」を世に問うた金聖雄（キムソンウン）さん。この番組はその3弾目に当たりますが、監督は「私はジャーナリストでもなくえん罪専門の映画監督でもない。嘘の自白を強要され、獄中で親の死を知らされ、絶望の淵にいたはずの彼らが、『不運、だったけど不幸、ではない、我が人生に悔いなし』と笑っていることを不思議に思い撮り始めた」と語っています。

獄友たちの和やかな交友を、つい笑いながら見てしまいますが、番組は、えん罪事件を引き起こした警察・検察の過酷な取り調べの実体も暴いています。

この番組で、私たちが汲み取るべきポイントは2点です。まず、5人全員が証拠開示の結果によって釈放されたことです。しかも、石川さん、桜井さん、杉山さんは再審を求めて闘う中で、仮釈放が



左から杉山卓男さん、袴田巖さん、石川一雄さん、菅家利和さん、桜井昌司さん

認められていることです。その意味で、汲み取ることの多い番組でした。

石川一雄さんのご両親のお墓は自宅の近所にあります。石川さんは「自分の再審無罪の報告をするまでは、墓参りには行かない」と決意されています。桜井昌司さんは「自分の闘いは再審無罪で終わりではない。あらゆるえん罪に立ち向かう」と語っておられます。その人生をかけた志に学びたいと思います。

「獄友」は、今秋、2時間の映画版となって完成するそうです。乞うご期待！